

平成31年度 取組予定

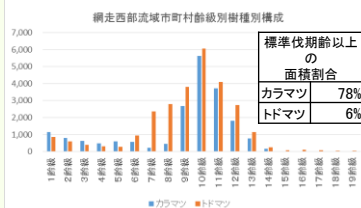
地域課題解決に向けた取り組みについて

～コンテナ苗の夏季植栽試験等の継続～

網走西部森林管理署

【現状】

網走西部流域では、今後も主伐面積の増大が見込まれ、育成単層林（人工林）として維持する森林については、主伐後の再造林とその後の保育作業を着実に実行する必要がある。



【問題】

再造林面積が増加していく中、「伐採・造林の一貫作業システム」により効率化を図るとともに、作業全体の平準化を図らなければ、再造林を着実に実施していくことは困難であり、植栽適期が限定される裸苗だけでは、作業期間の平準化を図ることは困難である。

【課題】

全道的に見て裸苗に対するコンテナ苗の活着率及び成長量の優位性を示す植栽試験例は多いが、夏季植栽の植栽試験例は少ない。特に網走西部流域では、夏季植栽試験例が無く、夏季植栽普及に向けての育苗技術に関する試験例も少ないのが課題である。

【これまでの取組】

平成30年、これらの課題に取り組むため、コンテナ苗の普及を目的とした展示林及び夏季植栽試験のための機能を併せ持つ試験地を、当署部内に設定した。

夏季植栽及び優良品種植栽試験の概要
(遠軽町丸瀬布国有林282と林小畠 面積：1.68ha)

樹種	苗木種別	植栽時期		本数合計
		春季植栽	夏季植栽	
ドイツトウヒ	コンテナ苗	511		511
	裸苗	300		300
クリーナラチ	コンテナ苗	1,000		1,000
	裸苗	300		300
トドマツ	コンテナ苗	800	200	1,000
	裸苗	180	120	300
本数合計		3,091	320	3,411



【目標】

コンテナ苗の活用により、「伐採・造林の一貫作業システム」の作業期間の平準化を図り、労働力の省力化（軽労化）及び森林整備コストの低コスト化の一層の推進を図る。

【令和元年度の取組予定】

1. カラマツコンテナ苗の夏季植栽の継続等

令和元年度は、カラマツコンテナ苗と裸苗の夏季植栽を実施し、コンテナ苗の優位性について検証する。
併せて植栽例の少ないドイツトウヒコンテナ苗の試験植栽も継続し、データ収集を行う。



2. コンテナ苗植栽への技術支援等

試験地を、現地検討会等に活用し、コンテナ苗の普及拡大に努めるとともに、国有林が先行的に実施している「伐採・植栽の一貫作業システム」などの情報提供を積極的に行ない、省力化（軽労化）に資する技術支援を継続する。



3. 検証結果の情報提供等

取り組みで得られた検証結果は、参画する検討部会の場合等で積極的に提供するとともに、必要な助言等を行いながら地域の林業関係者と連携し地域課題の解決に取り組む。



【今後の取組】

① 夏季植栽試験を継続しコンテナ苗の優位性を示すと共に、地域特性に根ざした植栽及び保育等の技術の課題の確立を念頭に植栽試験を継続する。

得られた検証結果等は、地元種苗生産者や林業関係者に積極的に提供し、コンテナ苗の一層の普及を図る。

② 今年度民有林で行われる「伐採・造林の一貫作業システム」について、オホーツク総合振興局、紋別市及び事業者と連携し、助言や技術的な支援等を行い、「伐採・造林の一貫作業システム」の一層の普及を図れるよう協力する。

令和元年度 取組結果

地域課題解決に向けた取り組みについて

～コンテナ苗の夏季植栽試験等の継続～

網走西部森林管理署

目 標

コンテナ苗の活用により、「伐採・造林の一貫作業システム」の作業期間の平準化を図り、労働力の省力化（軽労化）及び森林整備の低コスト化の一層の推進を図る。

取組の成果

活着率（残存率）調査結果

樹種	植栽時期	規格別	
		コンテナ	普通
トドマツ	8月	100%	64%
カラマツ	9月	90%	68%

2年間の取組ではコンテナ苗に優位性有り

〈参加者からの意見〉
○コンテナ苗の植栽期間の長さは魅力的、積極的に活用したい
○根鉢に重さがある分持ち運び大変等の意見が出され、メリット・デメリットを共有することが出来ました。
※当日の様子は一般紙にも掲載されました。

〈参加者からの意見〉
○コンテナ苗は、春先の高温乾燥時期でも優位性が高いのではないかと
○現状では、夏季植栽は下刈の適期と重なり、負担が大きい等の意見が出され、夏季植栽の導入には課題があることがわかりました。

目標に対する達成度

○夏季植栽試験について
平成30年度～令和2年度までの3カ年の予定で、夏季植栽試験を継続することとしており、令和元年度はカラマツの植栽を9月に予定通り行いました。
○活着（残存率）調査及び情報提供について
上記検討会等の他に、網走西部流域活性化協議会WGにて、夏季植栽のデータを予定通り提供しました。

次年度の取組予定

○夏季期間（7月・8月・9月）の同一樹種継続植栽試験を実施し、更なる植栽適期の可能性の検証を行います。
○既存の試験箇所の調査（普通苗との成長量比較等）を継続し検証を続けます。
○ドイツウヒコンテナ苗の生長量試験を継続します。

得られた情報は、随時情報提供します！